

## ご挨拶にかえて

播本 秀史

昨年度から文学部教職課程で教鞭を執らせていただいております。昨年度、前所長の加山先生より、所員へのお誘いがございましたが、諸々の都合で一年間、猶予をいただいております。

さて、この四月より所員となったわけですが、今年度、まだ一度もキリスト教研究所に行っていないことに気付きました。先の所員会議は授業とぶつかって出席できませんでした。というわけで、まだ所員としての実態も自覚もなく、いわば宙に浮いているような状態です。

私は「キリスト教主義教育研究」のプロジェクトの一員ということなのですが、どういう働きをすればよいのか分かっていません。

ただ、拙著の『新井奥邃の人と思想—人間形成論—』の関係で、このプロジェクトに加えていただけたと推察するならば、そこで述べたことを今後、より深化・発展させればよいのかと考えます。そうだとすれば、無理なくそのプロジェクトに参加できそうで楽しみです。

人間形成における究極的实在の意味を探求することは、私の大きな研究テーマのひとつです。担当している「道徳教育研究」でも、それは基底にあります。ただ、直接にはそれを出しません。自由な探究の過程で、それに気付いてくれればよし、くれなくてもよし、ということでやっています。

私は小学校の低学年の頃より「日曜学校」に行っていました。伯母がその教師として奉仕していました。中高大、そして高校教員時代と、信仰の在り様は様々でした。ニーチェやサルトル、また仏教に強く魅かれた時代もありました。洗礼を受けたのは、四十歳になる年の八月四日です。埼玉・飯能教会で横山厚志牧師より受洗しました。人生半ばでの決断でした。それゆえか、キリスト教に対して反発や違和感を覚える人の気持は、いく分、よく分かるつもりです。

先ほど決断と言いましたが、実はそれは恩寵でもありました。また、神の全能の証でもありました。神は私を赦し、信仰者とならせて下さったのです。

(はりもと ひでし

所員、文学部専任講師)